

教育目標: ○ゆたかな心で じょうぶな子 ◎自らよく考えて やりぬく子(重点目標) ○みんなで 協力しあえる子  
 目指す学校像: 1心が響き合う学校 2学ぶ喜びがあふれる学校 3力がみなぎる学校 4互いに結ばれている学校  
 目指す児童・生徒像: 1よく考え伸びようとする子 2心優しく支え合おうとする子 3すすんで心身をきたえようとする子  
 目指す教師像: 1自らを高めるとともに、互いに高め合う教職員 2教育論をもち、児童の育ちを語る教職員 3確かな人権意識をもつ教職員 4経営参画意識をもつ教職員 5教育公務員としての自覚をもつ教職員 6学校・地域を愛せる教職員

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標	努力指標	成果指標	成果指標	分析コメント	改善策
				(中間)	(最終)	(中間)	(最終)		
豊かな人間性の育成	人権教育の充実 道徳教育の充実 生活指導の充実 体験的活動、表現や鑑賞活動の充実	全教育活動を通して、いじめ防止教育の充実に努め、命を大切に、互いの人権を尊重し合う態度を育てる。	「いじめ防止基本方針」に則り、年間を通じていじめ防止教育を徹底し、いじめの兆候を見逃さず、一人ひとりの児童理解に基づいた指導の充実を図る。	3	/	4	/	いじめに関するアンケートをもとに聞き取り、その内容を児童指導や道徳の授業等に反映させた。日々の児童の様子を観察している。いじめは絶対に許さないことと児童に周知している。	引き続き、いじめに関するアンケートを活用する。児童理解に努め、日々の様子をよく観察し、変化が見られる児童には、すぐに声をかけるようにする。
		基本的な生活習慣の確立を図り、自分自身で自他の安全に配慮して行動しようとする態度を育てる。	「返事・あいさつ・後始末」を合言葉に、生活指導を徹底する。「四小生活スタンダード」を改善、指導の充実を図る。	3	/	4	/	月間の生活目標を月初に全体で確認した。あいさつについては、普段の生活から意識して取り組んでいる。教室の美化に努め、整理整頓や片付けがしやすい環境を整えるようにしている。	教員が率先してあいさつをする。月目標と照らし合わせた指導をして意識を高める。月間の生活目標を児童から見える位置に掲示し、月初に全体で確認していく。
確かな学力の定着	基礎的・基本的事項の徹底 授業の充実を図るための授業改善 読書活動・プログラミング教育の推進	児童一人ひとりが「わかる、できる、つかえる」ことを実感できる授業の実践し、児童の自己肯定感を育てる。	授業のねらいと振り返りを全授業で行い、児童一人ひとりが「わかる、できる、つかえる」ことを実感できる授業の実践し、児童の自己肯定感を育てる。	4	/	4	/	めあてを明確にし、それを基に授業展開をした。ICTも取り入れ協働的な学びを意識したグループ学習やペア学習を実施している。ノート指導の徹底をし、振り返りやすいノート作りを目指している。	内容を理解できなかった児童には、個別指導を行い、安心して次の学習に取り組めるようにしていく。ICTを取り入れ、個別最適化を意識し学習を進めていく。
		自ら学び、自ら考える活動の日常化を図る。	学習活動においてICTを積極的・効果的に活用し、情報活用の基礎および実践力、ルールや科学的な理解を図る。また、朝読書や読書旬間を設け、読書活動の習慣化を図る。	4	/	3	/	ICTでは著作権や情報モラルについても指導している。具体物の映像を見せる、考えを共有するなど、児童の実態に合わせてICTを活用している。学校図書館を活用し読書指導に取り組んでいる。	学習道具の一つとしてICTを使えるようにしていく。また、著作権や情報モラルも引き続き指導する。低学年は読書活動の時間を確保する。高学年は、隙間の時間などに読書活動を多く取り入れ、習慣化させる。
たくましい心身の育成	健康教育の積極的な推進 体育活動の日常の実践を推進 安全教育の推進	食育を計画的に実施し、食への関心を高める。	給食指導や会食会を通して、食や健康に興味をもち、よりよい生活を送ろうとする態度を育てる。	3	/	4	/	トウモロコシの皮むきや給食室見学、お楽しみ給食など、栄養士の協力のもと、給食をより身近に感じ、食に関心をもちさせた。給食委員会の取組をいかして、給食をすすんで食べようとする姿勢を育てている。	食材に関わる体験活動、お楽しみ給食会や家庭科で栄養について学習したことなどを、普段の給食指導にもいかしていく。
		体育指導の充実	「遊ぶ、かかわる、高める」を合言葉に、自ら体力を高める児童の育成に取り組む。自他の安全に目を向け、自ら危機を回避し、行動できる資質や能力を育む。	3	/	3	/	体育や休み時間の安全について、指導を行った。体育の授業やなわとび旬間などと関連付け、休み時間に体を動かすよう声をかけたり教員も校庭に出たりしている。高学年では体力アップカードの活用をした。	校庭の使い方や遊びのルールを指導し、休み時間の校庭遊びを推進する。体育や休み時間、行事を通して積極的に体を動かしていけるよう環境づくりをしていく。
学校・家庭・地域の連携強化	特色ある教育活動の充実 家庭・地域との連携及び協働を推進	「四小国分寺学」として地域に親しみ、学び、貢献する授業を推進する。	「四小国分寺学」として、史跡等の地域環境や地域人材を活用した、地域に親しみ、地域に学び、地域に貢献する授業を推進する。	3	/	4	/	学年で国分寺学に関する教材開発をした。社会、総合的な学習の時間や生活科を活用し、児童が自ら調査し、探究できる学習を進めている。	国分寺について学んだことを広く発信していくことを意識させ取り組んでいく。また、国分寺学を通して、地域に愛着をもつ心を育てていく。さらに地域人材の活用の充実を図っていく。
		家庭・地域と互いに手を携えた安全管理の徹底を図る。	義務教育9年間を見通した「四中ブロックスタンダード」を学校・保護者・地域で共有する。	3	/	3	/	小中連携において、情報共有を行い、義務教育9年間を見通した話し合いを行った。教員の異動があるので、「四中ブロックスタンダード」の内容の確認が必要である。	「四中ブロックスタンダード」の内容を確認し、系統的に指導をする。また、国分寺学を活用して義務教育9年間を見通した教材研究をしていく。また、保護者会や通信等で保護者にも啓発していく。